## 特別講演

10月29日	(木) 16:00-17:00  Regulation of auxin and cytokinin metabolism during Arabidopsis root development	11
	(Umeå Plant Science Centre, Department of Forest Genetics and Plant Physiology, The Swedish University of Agricultural Sciences)	
	受賞講演	
10月29日	(木) 15:00-15:45	
学会賞	突然変異体を利用したテルペノイド植物ホルモンの生物有機化学的研究 山口信次郎 (理化学研究所・植物科学研究センター)	12
奨 励 賞	天然シアナミドの発見とその分布に関する研究加茂綱嗣 (農業環境技術研究所)	. 13
	ランチョンセミナー	
10月29日	(木) 12:30-13:20	
	質量分析とシステムバイオロジーの境界 前田斉嘉 (アジレント・テクノロジー株式会社)	14
	口頭発表 (演題及び発表者)	
10月29日	(木) 09:45-10:42	
仲友	アテトラアミン異性体であるスペルミンとサーモスペルミンの HPLC による定量分析手法の確立 『紀恵 「、渡邊佳奈子 「、G.H.M. Sagor 「、新津 勝 ゚、M. Arumugam Pillai ³、草野友延 「、高橋芳弘 「 大・院・生命科学、² 城西大・薬、³ タミールナズ農業大)	. 15
信田	プコマンネングサ中の糖産生量の定量による生育状態の診断 I 団亜希 <sup>1</sup> 、手塚朋洋 <sup>2</sup> 、飯島健太郎 <sup>2</sup> 、齋藤 潔 <sup>2</sup> 横浜大・医用工、 <sup>2</sup> 桐蔭横浜大・院・工)	16
佐々	マイクロアレイを用いた植物ホルモンの相互作用の解析	. 17
南原 ( <sup>1</sup> 理研	ヌナズナ種子における吸水極初期の植物ホルモン代謝 『英司 <sup>1.2</sup> 、立松 圭 <sup>1.3</sup> 、菅野裕理 <sup>1</sup> 、保浦徳昇 <sup>4</sup> 、軸丸祐介 <sup>1</sup> 、神谷勇治 <sup>1</sup> 『・植物センター・生長制御、 <sup>2</sup> トロント大・細胞システム生物学科、 <sup>3</sup> 基生研・植物器官形成学、 <sup>4</sup> 名古屋大・ 機能開発利用センター)	18
安藤	シン生合成阻害剤候補化合物を用いた IAA 変異体の探索 『卓也 「、中村英光 「、嶋田幸久 <sup>2</sup> 、中野雄司 <sup>3</sup> 、浅見忠男 「 院・農生科・応生化、 <sup>2</sup> 理研・PSC、 <sup>3</sup> 理研・植物化学生物学ユニット)	19
郷田秀	②DNA マイクロアレイデータの解析とオーキシン生合成阻害剤の発見 「動」、添野和雄 <sup>2</sup> 、小倉岳彦」、佐々木江理子 <sup>1,3</sup> 、吉田茂男 」、藤岡昭三 <sup>4</sup> 、浅見忠男 <sup>3</sup> 、 嶋田幸久 <sup>1,3</sup> 「・PSC、 <sup>2</sup> 農研機構・近中四農研、 <sup>3</sup> 東大院・農生科・応生化、 <sup>4</sup> 理研・ASI)	20
添野	・シン生合成阻害剤の同定と機能解析 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	21
津田 ( <sup>1</sup> 岡山	「ーキシン極性輸送阻害剤の生理活性と作用機構	22
中尾	(Auxin binding Protein 1) 特異的プローブの設計と合成 Z幸生、林謙一郎、野崎 浩 里大・生物化学)	23
坂口	ロコシ幼葉鞘先端における IAA 合成と細胞・組織構造との関係性の検討 1祐介 '、松本さちこ '、西村岳志 <sup>2</sup> 、小柴共一 <sup>2</sup> 3大・都市教養学部・理工学系・生命科学、 <sup>2</sup> 首都大院・理工学研究科・生命科学専攻)	24

11	トウモロコシ幼葉鞘切片を用いた光屈曲反応実験系の確立	. 25
	松田さとみ <sup>1</sup> 、梶塚友美 <sup>1</sup> 、西村岳志 <sup>2</sup> 、門田明雄 <sup>2</sup> 、小柴共一 <sup>2</sup> ( <sup>1</sup> 首都大・都市教養学部・理工学系・生命科学、 <sup>2</sup> 首都大院・理工学研究科・生命科学専攻)	
12	トウモロコシ幼葉鞘の重力屈曲には ZmPIN1 により先端から輸送される IAA の偏差分布に伴った TIR1/AFBs を介した 遺伝子発現の制御が必要である	. 26
	西村岳志 「、中野仁美 「、林謙一郎 <sup>2</sup> 、丹羽理陽 「、小柴共一 「 (「首都大院・理工学研究科・生命科学専攻、 <sup>2</sup> 岡山理科大学・理学部・生物化学科)	
13	- トウモロコシ幼葉鞘先端における indole-3-acetic acid (IAA) 合成量を指標とした IAA 生合成に影響を与える物質のケミカル スクリーニング	. 27
	が活てはする。 四代音志 る。 嗣野忠弥 、 久休 へねる。 、長台部元泰 で、立原博学 も、神台男治 、 小宋共一 で (「首都大院・理工学研究科・生命科学専攻、2科学技術振興機構・ERATO、3基生研・進化多様性、4理研・植物科学センター)	
14	トウモロコシ幼葉鞘の重力屈曲反応を用いた indole-3-acetic acid (IAA) 生合成に影響を与える物質のケミカルスクリーニング 森島大智 <sup>1</sup> 、保野由行 <sup>1</sup> 、須藤亜衣 <sup>1</sup> 、中島桃代 <sup>1</sup> 、西村岳志 <sup>5</sup> 、駒野照弥 <sup>5</sup> 、久保 稔 <sup>2</sup> 、長谷部 光泰 <sup>2,3</sup> 、笠原博幸 <sup>4</sup> 、神谷勇治 <sup>4</sup> 、小柴共一 <sup>5</sup>	. 28
	(「首都大・都市教養学部・理工学系・生命科学、「科学技術振興機構・ERATO、」基生研・進化多様性、 「理研・植物科学センター、」首都大院・理工学研究科・生命科学専攻)	
15	シロイヌナズナ完全長 cDNA 過剰発現ラインによる迅速な阻害剤標的タンパク質同定法の確立 笠原博幸、市川尚斉、近藤陽一、堀井陽子、黒田博文、津本裕子、松井 南、神谷勇治 (理研・植物科学センター)	29
16	イネ GARP 転写因子 OsGLK1 を介したオーキシン / サイトカイニンによる葉緑体分化調節機構の解明 中村英光 <sup>1</sup> 、村松昌幸 <sup>2</sup> 、羽方 誠 <sup>3</sup> 、高野 誠 <sup>2</sup> 、市川裕章 <sup>2</sup> 、浅見忠男 <sup>1</sup> ( <sup>1</sup> 東大院・農生科・応生化、 <sup>2</sup> 農業生物資源研、 <sup>3</sup> 中央農研・北陸)	30
17	高温ストレスによるオーキシンの減少が雄性不稔を誘発する	. 31
18	キュウリ芽生えの重力形態形成に伴う CsPIN1 の局在変動と IAA 動態変化の解析	32
19	根端部位のオーキシン生合成による勾配に向かったシロイヌナズナ平面極性の調整 池田佳久 <sup>1</sup> 、Ljung Karin <sup>2</sup> 、Grebe Markus <sup>3</sup> ( <sup>1</sup> 東北大・院・生命科学、 <sup>2</sup> Umeå Plant Science Centre (UPSC), Department of Forest Genetics and Plant Physiology, Swedish University of Agricultural Sciences、 <sup>3</sup> Umeå Plant Science Centre (UPSC), Department of Plant Physiology, Umeå University)	. 33
10	月 29 日 (木) 10:55-12:10	
20.	ピリミジン誘導体のプロトポルフィリノーゲン IX オキシダーゼ阻害活性 牛島智絵 $^2$ 、 池田佑美 $^4$ 、大野竜太 $^4$ 、小山一秋 $^4$ 、宿松菜美 $^4$ 、岡村充康 $^5$ 、近藤 智 $^5$ 、佐藤幸治 $^{1.3}$ $(^1 玉川大院・農、^2 玉川大・農、^3 玉川大・学術研、^4(財) 相模中央化学研究所、^5 北興化学工業 (株))$	34
21	分光分析を利用した新規 4-HPPD 阻害剤探索法の開発	35
22	キャベツセル苗の塩締め処理に対する 5-アミノレブリン酸 (ALA) 含有肥料の改善作用	. 36
23.	5-アミノレブリン酸 (ALA) 含有肥料 (PKS) とジベレリン生合成阻害剤との併用によるイネ健苗育成効果	37
24.	ジベレリンとプロヒドロジャスモンの混用処理によるウンシュウミカンの浮皮発生防止について	. 38
25	シロイヌナズナ種子発芽の高温阻害を緩和あるいは促進する化合物の選抜	. 39

26.	ジベレリン受容体解析プローブの創製: in silico screening による GID1 結合化合物の探索と合成	. 40
	(「東大院・農生科・応生化、2理研・基幹研、3岡山理科大学・生物化学科)	
27.	ジベレリン受容体のシグナル分担制御機構の解析	. 41
	朴 昇玹 <sup>1</sup> 、鈴木浩之 <sup>1</sup> 、大久保杏子 <sup>1</sup> 、北村 淳 <sup>1</sup> 、上口-田中美弥子 <sup>2</sup> 、井内 聖 <sup>3</sup> 、加藤悦子 <sup>4</sup> 、小林正智 <sup>3</sup> 、山口五十麿 <sup>5</sup> 、松岡 信 <sup>2</sup> 、浅見忠男 <sup>1</sup> 、中嶋正敏 <sup>1</sup>	
	( <sup>1</sup> 東大院・農生科・応生化、 <sup>2</sup> 名大・生物機能開発セ、 <sup>3</sup> 理研・BRC、 <sup>4</sup> (独) 農業生物資源研、 <sup>5</sup> 前橋工大)	
28.	イムノモジュレーションにより見出されたフィラメント状小胞体の応用	. 42
	岡田浩一、浦上恵理子、浅見忠男、鈴木義人 (東京大・院・応用生命化学)	
29.	レタス DELLA 遺伝子の特徴付け	. 43
	梅津麻実 $^1$ 、澤田義昭 $^1$ 、北村 $^2$ $^2$ 、鈴木浩之 $^2$ 、中嶋正敏 $^2$ 、浅見忠男 $^2$ 、井上康則 $^3$ 、三橋 $^3$ $^1$ 、豊増知伸 $^1$ $^1$ $^1$ $^1$ $^2$ $^2$ $^3$ $^3$ $^4$ $^3$ $^4$ $^4$ $^4$ $^4$ $^4$ $^4$ $^4$ $^4$	
30.	コケ植物の ent-カウレン由来の内因性ジテルペン型成長調節物質の生理機能	. 44
	林謙一郎 <sup>1</sup> 、堀江桂介 <sup>1</sup> 、日渡祐二 <sup>3</sup> 、川出 洋 <sup>4</sup> 、山口信次郎 <sup>2</sup> 、中島 保 <sup>1</sup> 、中嶋正敏 <sup>5</sup> 、長谷部光泰 <sup>3</sup> 、野崎 浩 <sup>1</sup> ( <sup>1</sup> 岡山理大・生物化学、 <sup>2</sup> 理研・植物科学センター、 <sup>3</sup> 基生研・生物進化・総研大・基礎生物学、 <sup>4</sup> 東京農工大・農、 <sup>5</sup> 東大・応用生命化学)	
31.	ジベレリン 13 位水酸化に関わるイネのシトクローム P450 遺伝子の解析	. 45
	真籠 洋、野村崇人、花田篤志、武田- 神谷紀子、神谷勇治、山口信次郎 (理研・植物科学研究センター)	
32.	新奇ジベレリン信号伝達因子 GAF1 の標的遺伝子の探索	. 46
	深澤壽太郎 $^1$ 、村越 悟 $^2$ 、寺村 浩 $^2$ 、那須野慶 $^2$ 、西田尚敬 $^2$ 、吉田充輝 $^2$ 、神谷勇治 $^1$ 、高橋陽介 $^3$ 、山口信次郎 $^1$ $^1$ ( $^1$ 理研・植物科学研究センター、 $^2$ 東理大・基礎工・生物工、 $^3$ 広島大)	
33.	麹菌のジテルペン合成酵素	. 47
	千葉康隆¹、菅井佳宣²、塩野義人¹、大利 徹³、三橋 渉¹、川出 洋²、豊増知伸¹ (¹山形大学・農学部・生物資源、²東京農工大院・生命農学、³富山県立大学生物工学研究センター)	
34.	シダ植物イヌカタヒバにおけるジテルペン環化酵素の機能解析	. 48
	植野陽平 <sup>1</sup> 、大上信悟 <sup>2</sup> 、林謙一郎 <sup>2</sup> 、野崎 浩 <sup>2</sup> 、夏目雅裕 <sup>1</sup> 、川出 洋 <sup>1</sup> ( <sup>1</sup> 東京農工大・院・生命農学、 <sup>2</sup> 岡山理大・理)	
35.	ヨモギ属植物におけるセスキテルペノイドプロファイルの比較解析	
	下村昌也 ¹、鈴木宗典 ¹²、伊藤 隆 ¹、關 光 ¹²、西澤具子 ¹、南雲清二 ³、秋田 徹 ⁴、前嶋一宏 ⁴、高上馬希重 ⁵、村中俊哉 ¹²(¹横浜市大・木原生研、² 理研・PSC、³ 星薬科大・薬学部、⁴ 日本新薬株式会社・山科植物資料館、⁵ 北海道医療大・薬学部)	2
36.	ヨモギ属植物のセスキテルペン環化機構もとにしたクラスター解析	. 50
	鈴木宗典 $^{1}$ 、下村昌也 $^{1}$ 、伊藤 隆 $^{1}$ 、關 $\mathcal{H}^{1,2}$ 、西澤具子 $^{1}$ 、南雲清二 $^{3}$ 、秋田 徹 $^{4}$ 、前嶋一宏 $^{4}$ 、高上馬希重 $^{5}$ 、村中俊哉 $^{1,2}$ ( $^{1}$ 横浜市立大学・木原生研、 $^{2}$ 理研・PSC、 $^{3}$ 星薬科大学・薬学部、 $^{4}$ 日本新薬株式会社・山科植物資料館、 $^{5}$ 北海道医療大学・薬学部)	
37.	重力刺激によって変動するサクラジマダイコン黄化芽生えに含まれる生理活性物質	. 51
	長谷川剛 <sup>2</sup> 、Wai Wai Thet Tin <sup>2</sup> 、繁森英幸 <sup>2</sup> 、 宮本健助 <sup>1,4</sup> 、音松俊彦 <sup>3</sup> 、広瀬克利 <sup>3</sup> 、上田純一 <sup>4</sup> 、長谷川宏司 <sup>5</sup>	
	( <sup>1</sup> 大阪府立大・総合教育研究機構・生物系、 <sup>2</sup> 筑波大・院・生命環境科学研究科、 <sup>3</sup> 神戸天然物化学 (株)、 <sup>4</sup> 大阪府立大・院・理学系研究科・生物科学、 <sup>5</sup> 神戸天然物化学 (株)・ KNC-筑波ラボラトリー)	
38.	メスキートが生産する有用二次代謝産物の検索	. 52
	山本知佳、水谷正治、杉本幸裕 (神戸大院・農・生命機能科学)	
39.	Click chemistry を利用したイソレスペデジン酸カリウム標的タンパク質の精製	. 53
	真鍋良幸、向井 誠、上田 実 (東北大・院・理)	
40.	Click Chemistry 型分子プローブによる就眠物質標的タンパク質の効率的標識化	. 54
	猪俣 翔、中村葉子、海老根真琴、上田 実 (東北大・院・理)	
41.	柑橘およびマメ科植物におけるクマリン化合物生合成酵素の探索	. 55
	伊藤杏子、水谷正治、杉本幸裕 (神戸大院・農・生命機能科学)	

42.	・イソキノリンアルカロイド生合成に関わるシトクロム P450 cDNA の単離および機能解析 桂田拓人、杉本 元、水谷正治、杉本幸裕	. 56
	(神戸大院・農・生命機能科学)	
43.	バラ主要香気成分生合成に関与するフェニルアセトアルデヒド還元酵素の機能および局在の研究 鈴木優子 <sup>1</sup> 、小林寛実 <sup>1</sup> 、坂井美和 <sup>1</sup> 、陳 暁敏 <sup>1</sup> 、道羅英夫 <sup>2</sup> 、田中滋康 <sup>3</sup> 、渡辺修治 <sup>3</sup> ( <sup>1</sup> 静岡大学農学研究科、 <sup>2</sup> 静岡大学遺伝子実験施設、 <sup>3</sup> 静岡大学創造科学技術大学院)	. 57
44.	茎頂メリステム機能を調節する CLV3 は 13 アミノ酸アラビノシル化ペプチドである 大山健太郎、篠原秀文、大西真理、 松林嘉克 (名大・院・生命農学)	. 58
10	月 30 日 (金) 09:00-10:09	
45.	シダ植物に含まれるブラシノステロイドとその特徴 横田孝雄 <sup>1</sup> 、柴田恭美 <sup>1</sup> 、柳 康夫 <sup>1,2</sup> 、野村崇人 <sup>1,2</sup> ( <sup>1</sup> 帝京大学・理工・バイオ、 <sup>2</sup> 宇都宮大学)	. 59
46.	ヒメツリガネゴケが生産するステロイドホルモン 野村崇人 $^{1,2}$ 、柴田恭美 $^2$ 、藤田知道 $^3$ 、中野雄司 $^4$ 、横田孝雄 $^2$ ( $^1$ 宇大・雑草、 $^2$ 帝京大・バイオ、 $^3$ 北大院・理、 $^4$ 理研・中央研)	. 60
47.	. ブラシノステロイド生合成に関与すると推定されるコケおよびシダ植物 P450 の機能解析 西垣直人 <sup>1</sup> 、浦川晋吾 <sup>2</sup> 、水谷正治 <sup>1,2</sup> 、杉本幸裕 <sup>1,2</sup> ( <sup>1</sup> 神戸大院・農・生命機能科学、 <sup>2</sup> 神戸大・農)	. 61
48.	抗 BRII 抗体のスクリーニングとその応用	. 62
49.	LC-ESI-MS/MS によるプラシノステロイド分析法の構築 軸丸裕介、花田篤志、杉山真樹、笠原博幸、瀬尾光範、山口信次郎、神谷勇治 (理研・植物科学研究センター)	. 63
50.	. ブラシノステロイド情報伝達突然変異体 bil5 原因遺伝子のシグナリング経路上の主要因子としての機能解析	. 64
51.	ブラシノステロイド情報伝達突然変異体 bil4 の原因遺伝子の機能解析	. 65
52	- プラシノステロイド情報伝達突然変異体 <i>bss1</i> の原因遺伝子の機能解析	66
32.	嶋田勢津子 <sup>1</sup> 、小松知之 <sup>1,2</sup> 、中澤美紀 <sup>3</sup> 、松井 南 <sup>3</sup> 、川出 洋 <sup>2</sup> 、安部 浩 <sup>2</sup> 、夏目雅裕 <sup>2</sup> 、辻本雅文 <sup>4</sup> 、浅見忠男 <sup>4,5</sup> 、中野雄司 <sup>1</sup> ( <sup>1</sup> 理化学研究所・基幹研・植物化学生物学研究ユニット、 <sup>2</sup> 東京農工大学大学院、 <sup>3</sup> 理化学研究所・PSC、 <sup>4</sup> 理化学研究所・ASI、 <sup>5</sup> 東京大学農学生命科学研究科)	. 00
53.	プラシノステロイド情報伝達突然変異体 $bil3$ の機能解析	
54.	HLH 型転写因子をコードするイネの BUI 遺伝子は BR シグナル伝達を介してラミナジョイントの屈曲を制御する	. 68
55.	カニクサの造精器形成および原糸体伸長に対する GA、IAA、ABA、ブラシノステロイド、プロゲステロンの影響 米山香織、柴田恭美、横田孝雄 (帝京大学バイオサイエンス学科)	. 69
56.	オーキシン、サイトカイニンがストリゴラクトン生産・分泌に与える影響 米山香織「、朝比奈雅志「、野村崇人 <sup>2</sup> 、横田孝雄「、米山弘一 <sup>2</sup> (「帝京大学バイオサイエンス学科、 <sup>2</sup> 宇都宮大学雑草科学研究センター)	. 70
57.	根寄生植物ヤセウツボの寄生成立後の成長過程に関する形態学的観察 太田早矢香、水谷正治、杉本幸裕 (神戸大院・農・生命機能科学)	. 71

58.	根粒共生がオロバンキの寄生に及ぼす影響 土井智子、水谷正治、杉本幸裕	. 72
50	(神戸大院・農・生命機能科学) ストリゴラクトンアナログの調製	72
39.	上野琴巳!、花田篤志 <sup>2</sup> 、山口信次郎 <sup>2</sup> 、浅見忠男! ( <sup>1</sup> 東大院・農生科・応生化、 <sup>2</sup> 理研・植物科学研究センター)	. /3
60.	根寄生植物の種子発芽刺激活性に対するストライゴラクトン B 環の修飾の影響について福冨達也 <sup>1</sup> 、田中 彩 <sup>1</sup> 、滝川浩郷 <sup>1</sup> 、佐々木満 <sup>1</sup> 、村中 聡 <sup>2</sup> 、水谷正治 <sup>1</sup> 、杉本幸裕 <sup>1</sup> ( <sup>1</sup> 神戸大院・農・生命機能科学、 <sup>2</sup> 国際熱帯農業研究所)	74
61.	ストリゴラクトン類縁化合物の枝分かれ抑制活性の評価 梅原三貴久 <sup>1</sup> 、秋山康紀 <sup>2</sup> 、花田篤志 <sup>1</sup> 、神谷勇治 <sup>1</sup> 、山口信次郎 <sup>1</sup> ( <sup>1</sup> 理化学研究所・植物科学研究センター、 <sup>2</sup> 大阪府立大学・生命環境科学研究科)	. 75
62.	枝分かれに関するジベレリンとストリゴラクトンの効果	. 76
63.	カロテノイド酸化開裂酵素を標的としたストリゴラクトン生合成阻害剤の探索	77
64.	ヒメツリガネゴケ野生株および <i>CCD8</i> 破壊株 ( <i>Ppccd8</i> ) のクロロネマが生産するストリゴラクトンの解析	. 78
65.	イネが生産するストリゴラクトンの解析	. 79
66.	キュウリの根滲出物に含まれるストリゴラクトンの同定および構造決定	80
67.	シロイヌナズナにおけるストリゴラクトン応答性遺伝子の解析	
10	月 30 日 (金) 10:30-11:39	
68.	ニホンナシ果実成熟関連 ACC 合成酵素遺伝子 PpACS2 の転写因子の解析	82
69.	高休眠性シロイヌナズナ・アクセッションにおける胚休眠性調節機構の解析	83
70.	スイカ果肉に由来する種子発芽阻害物質の探索	. 84
71.	アプシジン酸 8'-水酸化酵素 CYP707A 特異的阻害剤アプシナゾール E の開発	85
72.	アゾール環修飾による高選択性アゾール系植物 P450 阻害剤の創製	. 86
73.	ABA 代謝物質ファゼイン酸の還元酵素の精製	87

74.	シロイヌナズナ発達種子におけるホルモン代謝 菅野裕理、軸丸祐介、神谷勇治、 瀬尾光範 (理研・植物科学研究センター)	88
75.	低窒素条件下で生育させたキュウリにおけるアプシジン酸によるクロロフィル生合成および分解の調節下田洋輔 <sup>1</sup> 、岡真理子 <sup>2</sup> (「鳥取大・院・農学研究科、 <sup>2</sup> 鳥取大・農)	89
76.	恒常的 SAR 誘導変異株における ABA 応答性の解析 安田美智子 <sup>1</sup> 、草島美幸 <sup>1、</sup> 篠崎 <sup>1 18</sup> <sup>1、</sup> 仲下英雄 <sup>1,2</sup> ( <sup>1</sup> 理研・知財、 <sup>2</sup> 理研・基幹研)	90
77.	ストレス応答時にイネの根特異的に誘導される RSOsPR10 の発現制御機構の解析 富永真規子、武内 薫、駒野照弥、岡本龍史、小柴共一 (首都大・理工・生命科学)	91
78.	イネのファイトアレキシン生産におけるジャスモン酸類の役割	92
79.	イネのエリシター応答性 WRKY 型転写因子 OsWRKY53 の標的遺伝子の同定 中条哲也 '、宮本皓司 '、岡田 敦 '、長村吉晃 <sup>2</sup> 、渋谷直人 <sup>3</sup> 、岡田憲典 <sup>1</sup> 、野尻秀昭 <sup>1</sup> 、山根久和 <sup>1</sup> ( <sup>1</sup> 東大・生物生産工学研究センター、 <sup>2</sup> 農業生物資源研究所、 <sup>3</sup> 明治大・農・生命科学)	93
80.	イネにおけるジテルペン型ファイトアレキシン生産を制御する bZIP 型転写因子 OsTGAP1 宮本皓司 $^{1.4}$ 、岡田 敦 $^{1}$ 、岡田憲典 $^{1}$ 、古賀仁一郎 $^{2}$ 、渋谷直人 $^{3}$ 、野尻秀昭 $^{1}$ 、山根久和 $^{1}$ $^{1}$ ( $^{1}$ 東大・生物生産工学研究センター、 $^{2}$ 明治製菓、 $^{3}$ 明大・農学部、 $^{4}$ 日本学術振興会特別研究員 DC)	94
81.	イネ 2 番染色体に存在する phytocassanes 生合成遺伝子クラスターの解析	95
82.	トリプトファンデカルボキシラーゼ阻害がイネの抵抗反応に及ぼす影響 中尾崇人 <sup>1</sup> 、石原 亨 <sup>2</sup> 、田中千尋 <sup>3</sup> 、三芳秀人 <sup>1</sup> 、若狭 暁 <sup>4</sup> 、宮川 恒 <sup>1</sup> ( <sup>1</sup> 京大院・農・応用生命、 <sup>2</sup> 鳥大・農、 <sup>3</sup> 京大院・農・地域環境、 <sup>4</sup> 東農大・農)	96
83.	イネにおけるジテルペノイドフィトアレキシンの生合成遺伝子ノックダウン株の作出 臼井雅美 <sup>1</sup> 、廣瀬祐子 <sup>1</sup> 、黒田昌治 <sup>2</sup> 、大友一子 <sup>1</sup> 、山根久和 <sup>3</sup> 、三橋 渉 <sup>1</sup> 、豊増知伸 <sup>1</sup> ( <sup>1</sup> 山形大・農・生物資源、 <sup>2</sup> 中央農業総合研究センター、 <sup>3</sup> 東大・生物生産工学研究センター)	97
84.	イチゴ葉の温湯処理による炭疽病菌抵抗性の誘導 佐々木克宗 <sup>1</sup> 、Widiastuti Ani <sup>2</sup> 、長谷川守文 <sup>1</sup> 、戸嶋浩明 <sup>1</sup> 、佐藤達雄 <sup>3</sup> ( <sup>1</sup> 茨城大・農・資源生物、 <sup>2</sup> 東京農工大・院・連合農学、 <sup>3</sup> 茨城大・農・FS センター)	98
85.	高温処理がイチゴに誘導する病害抵抗性機構の解析 平山潤太、安田美智子、草島美幸、篠崎 聰、仲下英雄 (理研・知財)	99
86.	ヒートショック処理により誘導されるサリチル酸を介した病害抵抗性機構の解析 草島美幸 <sup>1,2</sup> 、安田美智子 <sup>1</sup> 、権 純一 <sup>3</sup> 、小川大輔 <sup>4</sup> 、佐藤達雄 <sup>2</sup> 、西内 巧 <sup>3</sup> 、中島雅己 <sup>2</sup> 、阿久津克己 <sup>2</sup> 、山川 隆 <sup>3</sup> 、仲下英雄 <sup>1,5</sup> (「理研・知財、 <sup>2</sup> 茨城大・農、 <sup>3</sup> 東京大院・農学国際、 <sup>4</sup> 金沢大・学際科学実験センター、 <sup>5</sup> 理研・基幹研)	100
87.	植物の防御機構におけるイリドイド配糖体糖加水分解酵素の探索	101
88.	C6 揮発性成分によって誘導される Arabidopside 関連化合物の構造と機能	102
89.	ジャスモン酸配糖体の作用機構と細胞応答 中村葉子 <sup>1</sup> 、浜本 晋 <sup>2</sup> 、猪俣 翔 <sup>1</sup> 、Axel Mithöfer <sup>3</sup> 、Wilhelm Boland <sup>3</sup> 、魚住信之 <sup>2</sup> 、上田 実 <sup>1</sup> ( <sup>1</sup> 東北大・院・理、 <sup>2</sup> 東北大・院・工、 <sup>3</sup> マックスプランク研究所・化学生態学)	103
90.	ヒメツリガネゴケにおけるジャスモン酸の同定およびアレンオキシドシンターゼの機能解析 高橋公咲、Bandara P.K.G.S.S、佐藤道大、松浦英幸、鍋田憲助 (北海道大・院・農)	104